

ひかりと いのちの なにかま

光寿院住職 酒生文弥

しょうじいちによ
生死一如

親友の急逝、がん再発・
緊急手術

初夏の6月28日、高校・大学・
政経塾とずっと同窓だった親友、
笹木竜三元文部科学副大臣（民主
党）が急逝。四回日のワクチンを
打った直後、心筋梗塞でした。笹

木君を失い、その十日後に阿倍元
首相が暗殺され、衝撃が続きまし
たが、9月8日、オクトーバーフ
ェスト会場で三百人近い参加者の
前で私は66歳の誕生日を祝って頂
きました。
しかし、その一週間後、三カ月
に一度行っている膀胱癌の経過観

察で主治医から再発を告げられた
のです。6割が再発すると言われ
る膀胱癌です。覚悟はしてしまし
たが、少なからぬショックは禁じ
得ませんでした。

入院して10月31日に手術。11月
7日に退院するまで、四十年前に
自死した弟、病死・事故死した友
人たち、そして笹木君のこと、両
祖父母や父も偲びながら、天折の
多かった来し方を走馬灯の様に想
いました。

癌・脳出血・心不全は日本人の
三大死亡原因とされ、日本人の約
半数が癌に罹り、三人に一人が癌
で亡くなるそうです。それは、今
は餓死や戦争で殺されることのな
い時代だからです。何と恵まれた
国でしょう。しかし、世界では5
秒に一人が餓死しているといわ
れ、ウクライナでは戦争が続いて
います。二回目の手術・入院は私
の魂の脱皮をずいぶん促してくれ
ました。

東大病院の矢作直樹医師が『人
は死なない』と題する本を出版
し、話題になりました。仏教では
二千五百年前から（バラモン教では
もっと太古から）輪廻転生が教えの

基軸になっています。

見送る時、また残す者に後ろ髪
を引かれる時、私たちはとても悲
しみ嘆きます。でも、「自分」にと
っては、死は少しも悲しくはない
のです。怖いかも知れませんが。

臨死体験

10年前に真夜中の自転車事故で
臨死体験をしました。前輪ブレー
キしか効かないスポーツタイプで、
路上のポールに急ブレーキしたら
全体がカタパルトの様に作動し、
体が前方に宙を舞って顔面からア
スファルトに着地。顔面から噴水
の様に血が吹き出し「こりゃいか
ん」と思いながら悶絶しました。

ところが本当に不思議ですが、
街灯もない真つ暗闇に、「私」は明
るいオレンジ色の空中にいて、そ
れはそれは心地よかったです。
「ええーっ、極楽ってこのことか。
実に気持ち良いぞ。もうすぐ弟た
ちに逢える」とワクワクしていた
のです。数十分後（と後に知った）「大
丈夫ですか」と体を揺する救急隊
員の顔が目に飛び込んだ瞬間、激
痛にのたうち回りました。顔は割

れたザク口状態で体は血の海にいました。

千葉大医療センターに搬送され、即手術。男女の整形外科医がお喋りしながら編み物でもする感じで破裂した顔を縫い合わせてくれました。もともと大したツラではありませんが、フランケンシユタインはご免だと思っていました。折れた全前歯や飛び出した鼻骨も含め、よく見ないと解らないくらい完璧に修復して頂きました。外科医は芸術家です。大尊敬に値する職人技に深く感謝しています。

「死にゆくことは恐くない。(たぶん)極楽浄土に至る光体験だ」と納得しています。「娑婆(耐忍土)」をできるだけ長く愉しみながら、最期の楽しみといたしましょう。

供会くわい一処いつしよと、おかげさま

失血死していたところを救われた私にはまだ現世に使命があるのでしよう。その後2回の癌を乗り越えた今、更にそう感じています。「死」という漢字は「骨」と「匕(拝む字形)」。骨になっても拝んでくれ

る人がいて、関係性としての死が成立するのです。

経典には「往生(往って生まれる)」は説かれています。主観的な「死亡(客観的な関係性)」とは書かれていません。往生の先「成仏(永遠のいのちとなる)」できるか、何かに転生してしまうかはご信心次第です。そして浄土に往生できたらこの世でご縁あった愛者どうしが仏・菩薩として再会する、と説かれています。映画「タイタニック」のラストシーンのように。早世したXジャパンのヒデさんの墓石には、ただ「供会一処(供に一つ処で会う)」とだけ彫られています。

一神教では、死者は「最後の審判」を「煉獄」という待合室で待っているそうです。審判が下った時、亡霊は甦り永遠のいのちにあずかる者と地獄で焼かれ続ける者に別けられるとか。浄土仏教では「臨終一念の時」に即往生して、成仏する者と転生してしまう者に分けられるとあります。ただ「天国良いとこ一度はおいで」となる訳ではなく、仏から菩薩へと一段降りて、目に見えない霊力として愛する者たちを救う任務に就きます。

「還相菩薩」と呼ばれる霊位になるのです。言わば、天国に召されて天使としてこの世に派遣される、と言っている。「冥衆護持(目に見えない霊たちが護ってくれる)」。これが「おかげさままで」という日本語の起源です。

退院した夜、私は招待されていたネパール大使の天皇陛下認証祝賀会に参加しました。ネパール、インド、スリランカなど仏教にゆかりの深い国々の人々と懇親しながら、「ああ、弟や笹木君たちが計らってくれてるんだなあ。おかげさま」と深く感じ入りました。

おそらくこの世の出会いや別れ、仕事や楽しみはすべて「おかげさま」なのだ信じます。

生老病死

生かされゆくことは、老いてゆくことであり、時に病み、最期は死にゆくことである。娑婆で堪え忍ぶべき四つの苦しみ(諸行無常を悟らないから)、生老病死を私はそう訳しています。つづめれば、生かされることは死にゆくこと、あるいは、死にゆくことも生かされること。

と。つまり生死一如となります。

近年、量子力学でも、宇宙がぶつ続きに一つ(色即是空)であること、いのちや魂が不滅であること(不生不滅)、この世は永遠の此岸であること、など仏教の要諦が立証されつつあります。

念仏(永遠である今を生かされ抜くこと)を心がけましょう！

一期一会。すべての出逢いを活かし抜きましょう！

今、ようやく至った心境です。

酒生さこうふみや文ふみや痴ふみや

1956年9月8日 福井市篠尾町

浄土真宗本願寺派浄福寺

(753年創建)に生まれる

1980年3月31日 早稲田大学

政治経済学部卒業

1982年3月31日 (勸)松下政経塾

(第1期生修了)

1987年3月31日 龍谷大学

院博士後期課程修了(仏教学・比較宗教学)

同大学院から昭和59年9月

昭和60年8月カリフォルニア

大学大学院宗教学研究科へ文

部省奨学生留學

1986年1月〜12月 ニュージャ

ージー州立ラトガース大学大

学院へロータリー奨学生留學

浄土真宗本願寺派 得度(僧籍)

教師(住職資格) 頭座(僧侶最高位)

光寿院 www.kojin.com/